

# 福医建研究会北欧視察報告書

コペンハーゲン・ストックホルム

2004.3.3 ～2004.3.12



2004.7.17

NPO 福祉医療建築の連携による住居改善研究会

## 視察先一覧

### ●デンマーク

- 3/4(木) 午前 ①デンマーク住宅公社・DAB  
DanskAndelsBoligselskab  
担当：Mr.Niels C.Krutzon(情報主任)
- ②住宅公社高齢者センター内の高齢者住宅  
(ケア付住宅・ソフィールンド)
- 3/5(金) 午後 ③高齢者コレクティブハウス (キエスベアルデン)
- ④エルシノア市の高齢者福祉課訪問・エルシノア市の  
高齢者ケア付住宅  
Helsingoer Kommune  
担当：Ms.Inge Metha Schmidtsdorff 他  
(Vapnagaard・Poppelhaven・Starandhoej Center)

### ●スウェーデン

- 3/8(火) 午前 ⑤テイビー・コミュニケーションにおける住宅改造の取り組み  
Taby Kommun, Technical div.  
担当：Mr.Hakan Knutsson & Mr.Ingemar Johansson
- 午後 ⑥テイビー地域の介護ホームとグループ・ホーム見学  
Taby Kommun  
Care Home & Group Home (Angaren/アンガーレン)  
担当：Ms.Karin Lagerkvist
- 3/9(水) 午前 ⑦ラングブロ・テクノエイド・センター見学(Langbro)  
Technical Aids Center  
担当：Annika Cronvall
- 午後 ⑧HSB の高齢者住宅見学  
Senior Housing "Radet"  
担当：Mr.Gunnar Fransson
- 3/10(木) 午前 ⑨インテリジェントハウス(ダンデリット病院内)  
@Home, Denderyd Hospital  
担当：Ms.Ann Grandqvist
- 午後 ⑩HSB 住宅協会本部にてレクチャー  
Head Office, HSB  
担当：Mr.Bjorn Kaelsson
- ⑪テイビー市ナイトケア視察  
Taby  
担当：エーヴァ・ヴィークルンド  
イングリッド・モッレル



## ①デンマーク住宅公社・DAB

Dansk almennyttigt Boligselskab

Danish Non-profit Housing Company

所在地 Finsensvej 33, 200 Frederiksberg

視察日時 2004.3.3

記録者 萩原美智子

### 1. はじめに

デンマークには日本のような公営住宅はなく、それに代わる仕組みとして賃貸住宅を非営利の住宅供給組織が政府の無利子ローン、コムーネの融資・補助金を資金源として建設してきた。このようなNP住宅供給組織の一つであるDABの本部を訪ねた。デンマークでは古い建物が今も活用されており、DAB本部も1930年代のインシュリン会社の実験室を改装したものだそうだ(写真1)。レクチャーを受けた情報主任のMr. Niels Chr. Knutzonは、元ジャーナリストでDABに勤務して25年になる。



写真1 DAB 外観

DABは1942年に設立され、昨年60周年を迎えた。最初に、ビデオでこれまでの活動が紹介された。初期にはイギリスの田園都市にならって新しい住宅が建設された。60～70年代には工業化住宅として低層集合住宅や塔状集合住宅が建てられ、この時期に年間約3万戸が非営利住宅供給組織によって建てられてきた。今日では家族向け住宅の建設より、単親所帯、高齢者、エスニック・マイノリティー、失業者向け住宅の住宅供給が多くなっているそうだ。



### 2. 非営利住宅供給組織の役割

デンマークでは住宅供給は、地方に分散化されている。全所帯数は約240万所帯で、その内110万所帯が借家に住んでいる。非営利住宅供給組織には民間建築法人、住宅協同組合、住宅保証協会などの形態がある。現在その数は全国に約700あり、全所帯数の約1/4にあたる60万戸(約8千の住宅団地)を所有・管理している。DABは4万戸を管理し、大きな組織の一つである。

表1 借家・持ち家別所帯数

(単位：千)

年次	1987	1989	1991	1993	1995
世帯総数	2,169	2,217	2,251	2,286	2,315
分譲住宅	1,204	1,227	1,210	1,201	1,205
賃貸住宅	939	965	1,001	1,042	1,051
その他	26	25	40	43	59

出所：Statistisk tiårsoversigt 96.

地方自治体は建物を所有しないが、供給される住戸の25%を住宅困窮者のために



使用することができるように法や規則で権限が保証されている。

#### ① 自治体との役割分担

DAB のようなノンプロフィット住宅会社が住宅の建設を行うが、入居者を決定し、家賃支払い能力がない人の対策など、住民の経済的問題を解決するのは自治体である。

#### ② 各 ESTATE(住宅群・団地)で独立採算

各 ESTATE の規模は、10 戸から 2500 戸まで幅広くある。立地条件などによって家賃や入居希望は様々であるが、団地間で家賃を融通しあうことはない。DAB は日本の公団のような組織であるとブンゴード氏の説明であったが、各団地で独立採算となる点が違う。

#### ③ 住民が決定主体

DAB は、最も大きな NP 住宅供給組織のひとつで、コペンハーゲンの他に4つの地方支社がある。そして 47 自治体に DAB が統括する 53 の NP 住宅会社があり、300 地域にある約4万の住戸(戸建て・集合住宅)の管理にあっている。各 NP 住宅会社には役員組織があり、役員は住民が過半数を占めことになっている。ESTATE には住民組合があり、

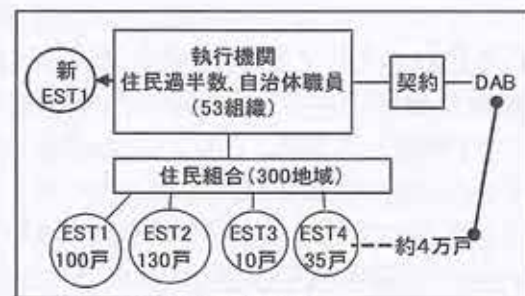


図1 DAB の契約形態

住民代表会議が年に1回総会を開いて役員を

選ぶ。この役員会議には自治体の代表も入るが、過半数は住民であるため、住民が住まいを決める主体といえる。そしてこの役員会が DAB と契約するかを決定する。契約が解除される場合もあるので競争原理が働き、サービスの質向上につながっている。新しい ESTATE を建設する場合もこの組織で決定し、住民との協議のもとで設計者や建設会社などを決定する仕組みになっている。

#### ④ DAB が契約に基づいて運営

DAB が、住宅建設から家賃の徴収までの管理を行う。DAB には 170 人の職員がおり、住民の役員は 1800 人いる。各 ESTATE の予算の組み方は様々で、それぞれに応じた管理や運営を行う。

また、デンマークではライフスタイルの変化に応じて住み替えが行われ、空き家募集に関する業務も取り扱う。DAB が管理する4万戸の内、年間5千戸に空きができる。ウェイティングリストには6万人が登録しているが、重複して登録ができるので住宅不足ではないとのことであった。

### 3 住み替えとデンマークの高齢者住

1987 年から高齢者住宅法が施行され、それまでの年金受給者住宅、ナーシングホーム、保護住宅に代わる新しいタイプの住宅「高齢者住宅」を供給することが定められた。



デンマークには古い住宅が多く、戸建ては17世紀、多層階住居も19世紀末の建物もあり、日本と違い中古住宅も新築と同様に市場に流通している。子どもは高校を卒業すると独立して家を作るのも、住み替えの要因になっている。従って、供給される住宅の種類は、若年者住宅、家族用住宅、高齢者住宅に大別される。家族用住宅に住む高齢者所帯が高齢者住宅に移行すれば、若い家族の住宅不足も解消されるので、「早めの引っ越し」が勧められている。高齢になって大きな住宅に住み続けるのは、管理の負担だけでなく社会経済的にも問題があるので、高齢者向け住宅に重点が置かれている。このため、新設は若年者住宅と高齢者住宅が多くなっている。

昔は高齢者住宅をコミュニティが建設していたが、法的にコミュニティが負債をもてない仕組みとなり、DABのような組織が受け持っている。資金面からみると、家族用住宅(平均110㎡)の場合、住宅費は持ち家で12000kr、協同組合住宅で6300kr、賃貸で4300kr程度とすると、新築の高齢者住宅(67㎡)は家賃が6700krと高くなるが、政府の補助があるので実質的な住居費負担は減り、住み替えを円滑にしている。

若者が独立する傾向は団塊の世代頃からだそうで、大学が都市部にしかないことも影響しているようだ。日本では家族住宅が終の棲家になっているが、山の斜地に建つ家を見ると、55歳からの「早めの引っ越し」は身につまされた。住民が自分たちの住まいのあり方を決め、ひいては社会の住宅政策に直接関わるデンマーク社会のあり方に感心した。日頃、社会の動向や政治に距離を置いて見ている自分を、大いに反省させられた視察第一日目でした。

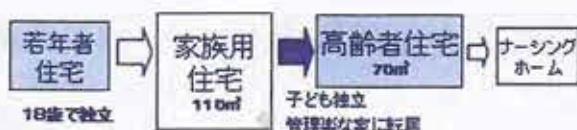


図2 住み替えと住宅供給

表2 デンマークの高齢者住宅政策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉地区」(人口1~2万人)毎に在宅支援サービス</li> <li>・1988年プライエム(重度要介護施設)新規建設禁止</li> <li>・2005年までにプライエム廃止の目標             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライエムに代わり、高齢者住宅を整備</li> </ul> </li> <li>・1995年頃より、「早めの引っ越し」を提唱</li> <li>・1996年以降、「プライエボーリ」普及</li> <li>・1997年高齢者住宅、若年者住宅、非営利住宅、協同組合住宅が公共住宅法に一本化(融通性は拡大するが国の援助削減)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライエボーリ             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者住宅の一形態(介護職員付き高齢者住宅)</li> <li>(2) 「高齢者及び障害者住宅法」に高齢者住宅の建築基準(構造面でのバリアフリー)                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1戸当たり平均面積が67㎡以下(共用部分を含む)</li> <li>・各戸に風呂・トイレ・台所・上下水道を設置</li> <li>・車いす使用者を含む高齢者や障害者に対応した構造(社会面でのバリアフリー)</li> <li>・歩行障害がある者でも住宅へのアクセスが可能</li> <li>・2階以上の建物にはエレベーターを設置</li> <li>・24時間以内に援助が呼べること</li> </ul> </li> <li>(3) プライエボーリの介護職員が地域の高齢者介護も行う「統合ケア」を実施している事例もある</li> </ol> </li> </ul>
<p><small>厚生労働省第7回社会保障審議会介護保険部会資料。 「世界の社会福祉5」旬法社より</small></p>

## ②住宅公社高齢者センター内の高齢者住宅

(ケア付住宅・ソフィールンド)

住宅供給機構 デンマーク住宅公社

所在地 ヒョースホルム

視察日時 2004.3.4

記録者 佐藤和子

### 1.概略

ヒョースホルムはコペンハーゲンから北へ17キロ、人口24000人のコミュニティで、デンマークでは平均的な人口規模のコミュニティである。団地のあるソフィールンドの隣には、比較的大きな病院があり、団地から徒歩圏内にショッピングセンターもある。

ソフィールンドは、コミュニティが計画し、1991年からデンマーク住宅公社によって建設された高齢者の集まる住宅団地である。病院に隣接し、全体で151世帯が暮らす。建設は段階的に行われ、1991年に行われた第一期建設では、長屋建全戸一層接地型79世帯(写真1)とアクティビティーセンター(写真2)が建設された。第二期建設は1995年からで、三階建・4棟、48戸が建設された。現在は第三期で、痴呆対応グループホームが建設対象である。現在、3ユニット24人分が完成し、すでに入居している。その隣に、来年度増築予定である。

### 2.管理など

デンマーク住宅公社は建設だけではなく、家賃の徴収や管理も行っている。

団地内には管理人(大工)が常駐し、毎週水曜日9時から18時まで住民からの相談にのる。相談は水まわり配管のつまりなどが多く、ちょっとした修理や手直しなら、管理人が行う。管理人は作業道具倉庫のあるワークショップを基点に自転車で団地内を巡回し、外構の管理もおこなう。

共同で利用する施設として、アクティビティーセンター以外に洗濯乾燥機を複数並べた平屋の洗濯棟がある。

### 3.アクティビティーセンター

アクティビティーセンターは、1975年の高齢者住宅法に基づいて、公社が建設し、コミュニティが利用しているので、コミュニティは公社へ家賃を払っている。多機能施設で地域の高齢者や障害者に利用されている。月曜から金曜まで、ビリヤード・読書・ペタンク・コンピューター・英会話・健康体操・ブリッジ・音楽・絵画・手芸・園芸などの様々なグループ活動が行われている。

### 4.入居者

入居者は、市のあっせんによる。入居希望者は多い。人から覗かれないということで、三階住戸の入居希望が多い。入居が決まると、入居者とコミュニティの看護師が住



宅の下見にきて本人の利用しやすいフィッティングを行う。使いたい補助器具、福祉用具などもコミュニオンが手配する。

ほとんどが車椅子か歩行器を利用している。自動車を運転する人は家の近くに駐車スペースを持つ。車を運転できない人は、タクシーの送迎サービスが利用できる。

## 5.住棟・住戸

住棟配置は(写真3)のとおりである。三階建棟の一住戸の内部を(写真4)に示す。



写真1



写真2

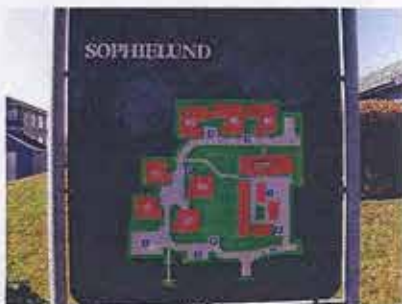


写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

### ③高齢者コレクティブハウス(キエスベアルデン)

シニア住宅 高齢者コレクティブハウス  
所在地 Kiesbaelunden, 4070 Kirke Hyllinge  
視察日時 2004.3.4  
記録者 萩原美智子

#### 1. はじめに

キエスベアルデンは高齢者向けのコレクティブハウスのひとつで、コペンハーゲン東のユーリング村のはずれにある。昔はサクランボを栽培していた土地に建てられたので、キエス(桜)ベアルデン(林)と名づけられた。子供が巣立った後も大きな家に住み続けるのは負担が大きいため、自分たちの手で高齢期にふさわしい住まいを作ったものである。

#### デンマークの協同組合住宅

##### co-operative housing

デンマークには共住方式の協同組合住宅が多く建てられており、全国的な調査が行われている。これには幅広い年齢層が住む①年齢統合型と②高齢者向けの2タイプある。前者は食事の共同化が行われているが、後者の高齢者協同組合住宅では食事など家事の共同化は行われていない。ここキエスベアルデンも広い敷地の中心に共用棟が建ち、その周りにテラスハウスが建っていた。

#### 2. キエスベアルデンの設立過程

一人の発案者が地方紙に呼びかけたのが、きっかけで当初は 135 人がそれに賛同した。知らない人どうしが週一回の会合や研修会を重ねて互いに知り合うようになり、3年後まで残ったのが 27 人だそうだ。

まず、市に援助を求め、その後 DAB と契約した。土地は、市の土地を購入することができた。また、市は万一に備えて施工費の 14%を保証してくれた。自分たちで建築家を選んで、計画を実行に移した。



写真1 共用棟を囲むように連続立ての住戸が配置されている



写真2 共用棟前で記念撮影



写真3 共用棟の集会室で、手作りのケーキをご馳走になりながら、会長さんから説明を受ける。



写真4 共用棟の洗濯室



**施設概要** 建物は2001年に竣工した。周辺は新興住宅地で、共同ハウスを囲むように21戸が数戸ずつ連続して建っている。

共同ハウスは約150㎡で、一戸当たり7㎡の負担になる。コートかけのある玄関ホールに入ると、左手に全員が集まることができる部屋がある(写真3)。食堂に連続して、本が置かれた居間的な部屋と奥にキッチンが設けられている。また、玄関の

反対側にはランドリーとトレーニングルームがある。共同ハウスは、全員が集合できるスペースを確保した。以前大きな家に住んでいたの、パーティーや誕生会ができる広い場所が、ここの魅力だそうだ。男性を増やすには工作室を作るのが良いが、そのスペースがあればゲスト用の宿泊スペースを作った方が良いという人もあり、意見をまとめるのは大変そうだった。敷地から200mの所に教会があり、立地に満足している様子が見えかけた。

住戸は、一人用(59㎡・65㎡)と2人用(74㎡・87㎡)がある。間取りは同じだが、仕上げや作り付け家具は各戸で異なる。家賃との折り合いを付けるためにディスカッションを重ねたそうだ。2人用住戸を2戸見学することができた。住戸プランはDK・L・寝室・サニタリーに、広いタイプは書斎がある。

**バリアフリー対応** 材料費は落としても、車椅子対応は最後まで固持したそうだ。サニタリーは洗面、トイレ、シャワーが一室になっている。住戸Bのシャワーはカーテンで仕切っている。細かく区切っていないので、介助のスペースも十分あるし、車いすでも使い易くなっていた。

**住民** 入居資格は50歳以上で、子どもと同居していない人である。現在は70歳前半の人が多く、最高年齢は83歳でみな元気である。同じコミュニンの人が多いが、他のコミュニンからきた人もいる。まだ3年しか経っていないが、内部での住み替えも行われたそうだ。現在空き家があるが、新しい入居者にはこの住み方のルールを理解してもらうことが重要で、選考は難しいとのことであった。

以前の職業は、農家・秘書・セールスマン・船員など様々である。大きな家に住んでいた人が多く、家具などを整理した。



写真5 住戸Aの玄関



写真6 住戸Aの居間・食堂



写真7 住戸Aの書斎



写真8 住戸A 台所から居間を



写真9 住戸A 食堂



子供との交流は皆まだ元気なので、子どもが訪ねてくるより、孫に会いに行く事が多いそうだ。

**施設運営・管理** 住民の会があり、会長の任期は2年で、今は2代目の女性の会長さんである。

共用ハウスは当番で掃除をし、外周りは業者に委託している。

月一回、住民の集会がある。定期的に行事を行い、イースターや誕生会、夏は戸外でバーベキューを楽しむ。共用棟での活動の参加は自由で、火曜日の朝は体操、午後はトランプ、木曜日の午後はお茶の時間である。

家賃は、暖房費を除いて5500～6000krである。住居費は以前に比べ上がっているが、国の補助があるので困らないそうだ。

敷地が広く住戸も平屋のせいか、日本の住区を見慣れた者には少々閑散とした感じを受けた。もっと集中した住まいの方が良くないかと質問すると、ゴミを捨てに行く途中でも人と出会って立ち話をする機会があるので良いとのことだった。前後に庭があり、部屋のあちこちに植木鉢が置かれ美しく飾られていた。今回初めて個人のお宅を拝見したが、部屋に置かれている電話・オーディオなどの機器や小物のデザインが洗練されていて感嘆した。これまで本で見ていた美しい室内が決して本の中だけでなく、ごく普通の人々の暮らしの中にあることを知った。また、どこの家庭にも蠟燭が日常的に使われている様子がうかがえ、長い夜を演出する知恵が受け継がれて文化を造っていくのかと感慨深かった。手作りのケーキをご馳走になり、快く家を見せて下さったキェスベアルデンの皆様にご挨拶致します。



写真10 住戸A サニタリー



写真11 住戸A 寝室



写真12 住戸B 居間



写真13 住戸BのDK



写真14 住戸Bのバスルーム



写真15 住戸Bのベッドルーム



#### ④エルシノア市の高齢者福祉課訪問・エルシノア市の高齢者ケア付住宅

ストランドホイ: デイケアセンター・高齢者住居棟

グロンネハーベ: 一般高齢者・若年障害者棟

所在地 Helsingør Kommune

視察日時 2004.3.5

記録者 湯浅 康生

午前9時30分より約2時間、エルシノア市の高齢者福祉課の二人の職員よりレクチャーを受ける。

一人は施設建築コーディネーターのインゲ・メタ・スミズドルフ女史でもう一人が高齢者福祉課のIT担当で、判定委員会のメンバーのハンネ・ホフ・イエッセン女史である。

### 1. エルシノア市の概要

エルシノア市はコペンハーゲンの北に位置し、デンマークでは最も東に位置する市(コミューン)である。現在の人口は6万人程であるが、デンマークの271ある市の中ではかなり大きな部類に入る。67歳以上の全人口に対する割合は約13.5%で、高齢化は少しずつ進んでいる。

### 2. 市の高齢者福祉プラン(1995年から2005年の10年計画)

住宅に関して次の目標を掲げる。

- ① 出来るだけ住み慣れた地域で暮らす事。
- ② 他の市に住んでいた人々も同じ権利を有する事。
- ③ 人々や住まいに対して様々なプランで対応する事。
- ④ 約1200世帯の高齢者、障害者用住宅を供給し、内500世帯をセンターハウジングとする事。(但し、人口動向により、現在再調整中)

### 3. 高齢者住宅の概要

現在の高齢者向け住宅は、ケアハウジングが8カ所、518世帯(523人)、センターハウジング128世帯、痴呆向け住宅118世帯となっているが、数は充足してないため、市が土地を売って、シニア住宅の建設を促している。

これらの住宅の広さは約60-65㎡で、共用スペースを持つ。

従来は、リフォームが多かったが、最近では新築の傾向が強い。市では現在次の4つのプロジェクト(3つの新築施設と1つの増改築の施設)がある。

- ① モンテベロ(1999年改造)
- ② スtrandホイ(2002年新築)
- ③ グロンネハーベ(2004年完成予定)
- ④ ファンケルコード(2007年完成予定)

これらは、施設ではなくあくまでも住宅であるという思想がコンセプトとなっており、個室を広く、ユニットケアを取り入れるという特徴を持っている。

#### 4. 高齢者住宅に関する基準

国の法律で一般住宅法の中に、高齢者住宅の章があり、その中に高齢者や障害者に適した基準(性能に関する)があるが、それぞれのプロジェクトに関しては、利用者委員会が基本的な方針を決めていく事になる。バリアフリーに関する法律はないが、ガイドラインは、住宅省や県から様々なものが出されている。

5. 施設建築コーディネーターについて  
エルシノア市では、95年からの高齢者福祉10年計画において高齢者福祉課に新たに施設建築コーディネーターが配属された。

この施設建築コーディネーターは、他の都市でも配属されているかは定かではないが、計画の当初から関わり、建設完了後の備品の決定まで細部にわたり一貫して関わる人材が自治体にいる事のメリットはかなり大きい。(利用者やケアスタッフとのコンタクトが密に出来、きめ細かい計画が出来る)

#### 5. さまざまな判定基準について

住宅改造や高齢者住宅に入居するためには、ビジテータと呼ばれる判定委員が判定し、決定していく事になる。判定委員会は、OTやPTなど20名で構成され、多くは本人から行われる申請に対して、以下のような基準に従って判定を行っている。

- ① 住宅に関する基準
- ② 生活機能の基準
- ③ ケアハウジングに入居するための基準
- ④ ケアハウジングのショートステイに入る基準
- ⑤ ケアハウジングに近接した高齢者住宅に入居するための基準
- ⑥ 一般の高齢者住宅に入居するための基準
- ⑦ 障害者住宅に入居するための基準
- ⑧ 住居改善の基準

それぞれの基準に関して、自立可能から相当程度の介助を必要とする場合までの4段階のカテゴリーに分類して判定の基準を設けている。

ビジテータは、これらの基準をもとに判定し、発注するが、住居改造に関しては、小規模から大規模まで様々あり、大規模になると具体的な方策に関しては建築士が関わってくる。

判定委員会の組織は、2003年1月から社会サービス法の改正により、中央に集中された。



6. 参考図面等



写真1 エルシノア・コミュニティ



写真2 レクチャーの様子



ストランドホイ 住戸平面図

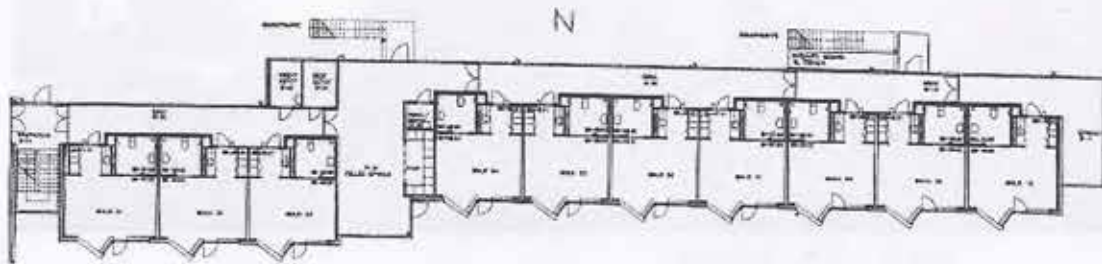


1 F



2 F

ストランドホイ デイケアセンター棟の図面



STRANDHØJ  
DAGCENTRUM BLOK C

BLAD OG

ストランドホイ 高齢者住居棟の図面





写真3 玄関



写真4



写真5 作業療法コーナー



写真6 廊下から居室をのぞく その1



写真7 廊下から居室をのぞく その2



写真8 廊下から居室をのぞく その3



写真9 海を見渡すデイルーム



写真10 室内リハビリコーナー



写真11 トイレ・シャワー



写真12 ホイストのレール

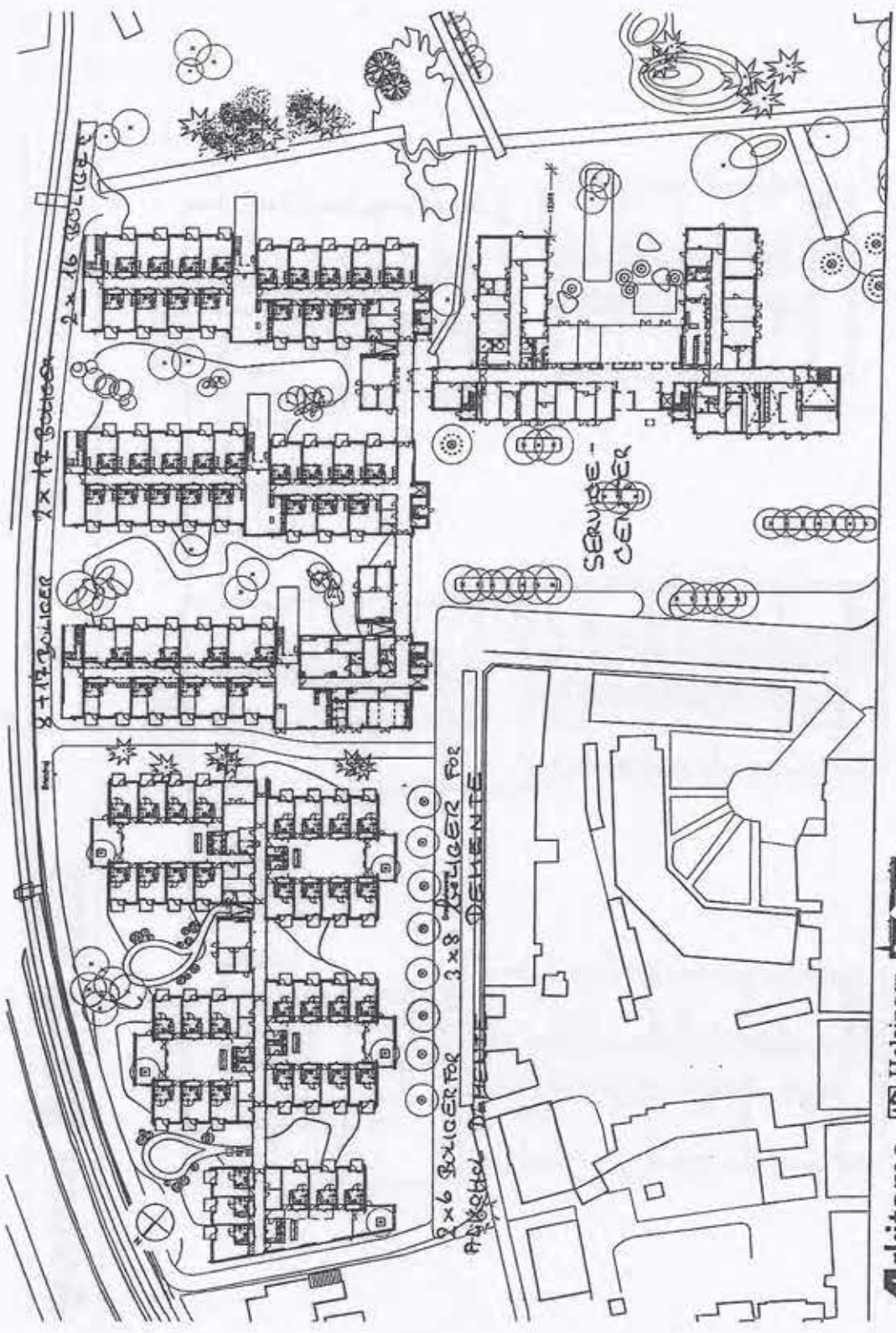


写真13 各住戸入口のポスト



写真14 旧家屋活用の高齢者施設





Situationsplan

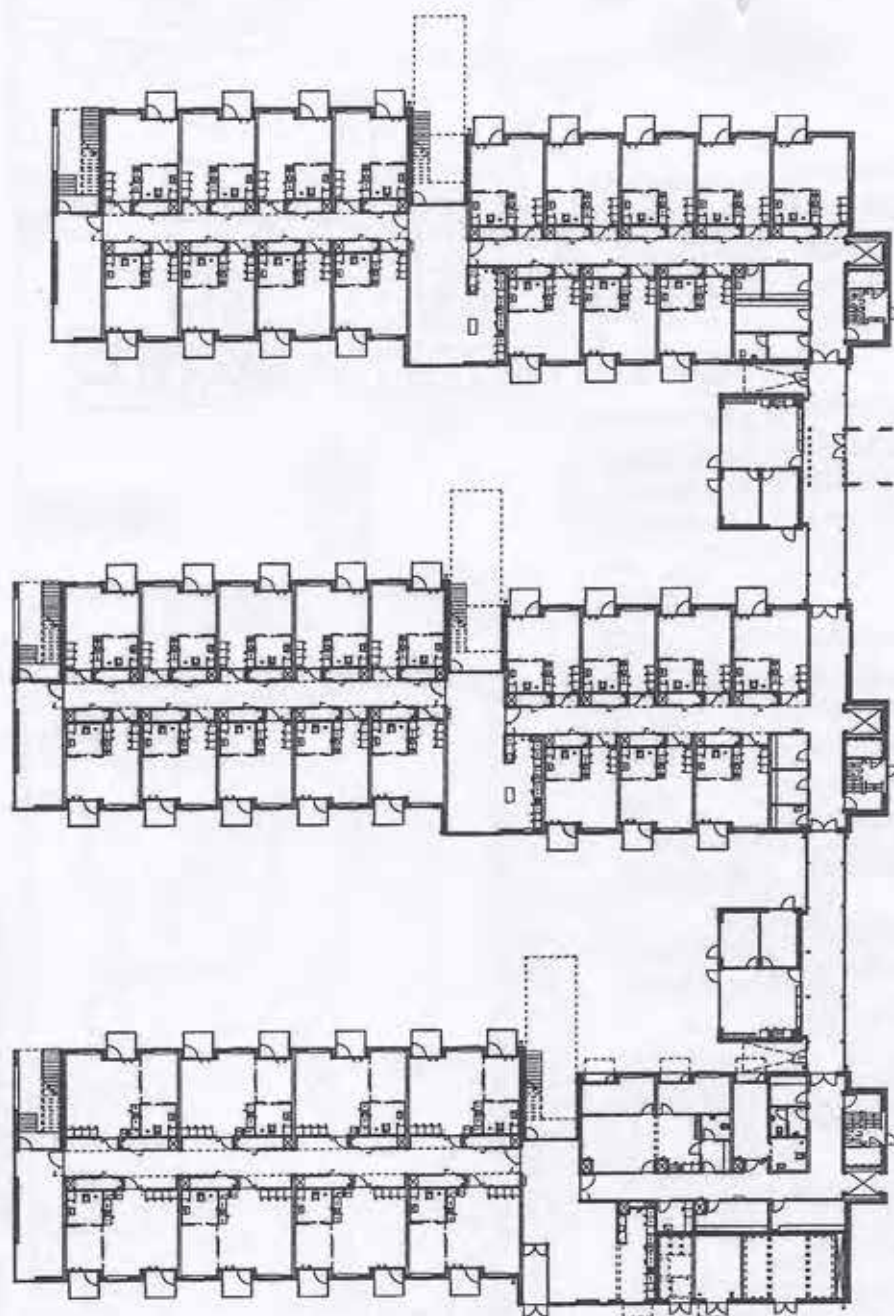


Helsingør Kommune



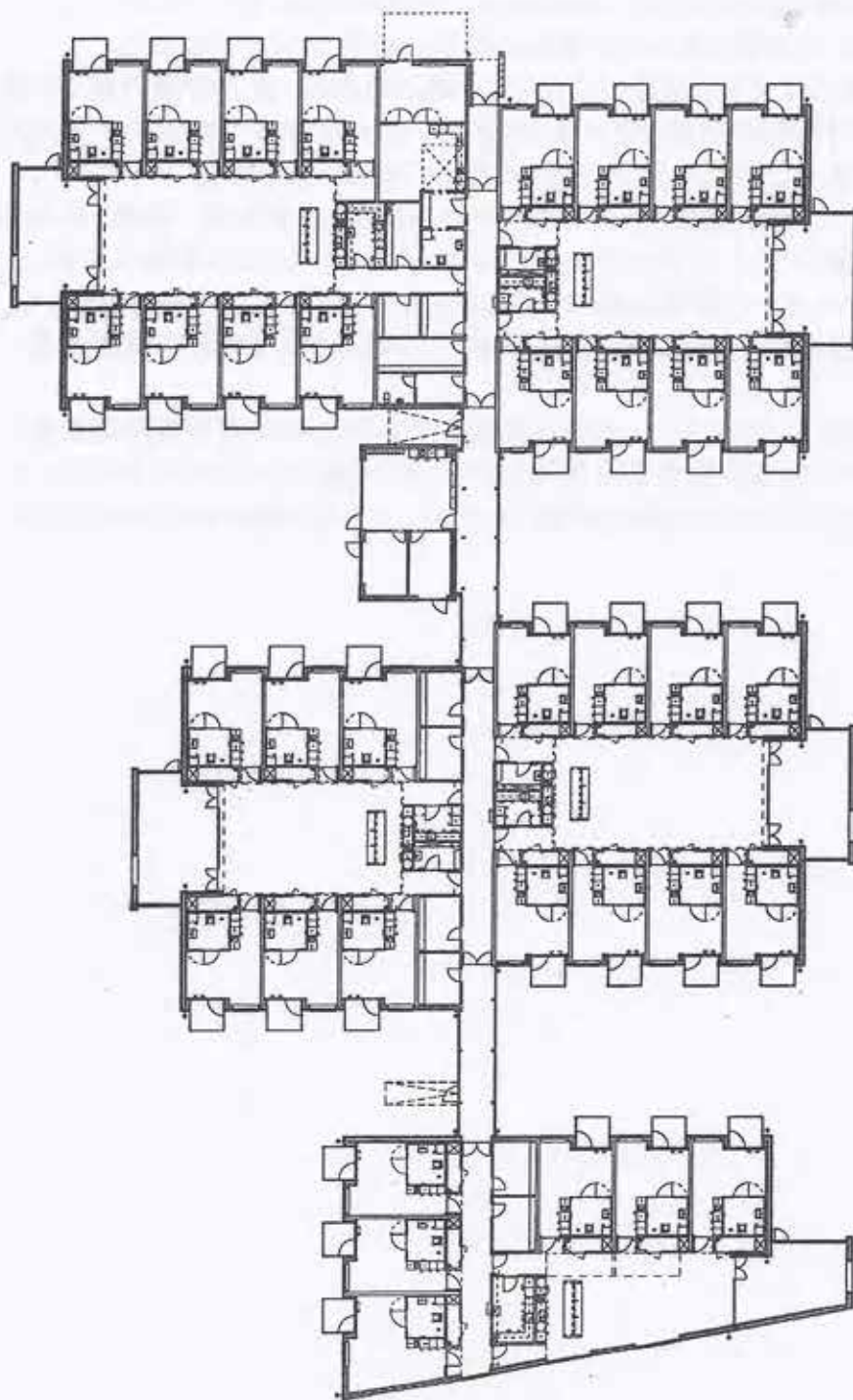
Arkitema

グロンネハーベ 配置図



グロンネハーベ 一般高齢者 若年障害者棟 平面図  
(全83戸) (全8戸)





グロンネハーベ 痴呆高齢者 若年アルコール依存症棟 平面図  
 (全24戸) (全12戸)



Helsingør  
 Kommune



Arkitema

Demensboliger

## 7. まとめと感想

デンマークでは1987年以降プライエムの建設が取りやめられ、それ以降はプライエムを改造した住施設が多く作られたが、1995年からの高齢者福祉プランにおいては、あくまでも住居であるという思想を持った住施設の建設に着手することになった。

これは、日本的に見ればやはり施設ではないかと思われるが、地方分権の進んだ北欧社会の様々な試行錯誤の結果と受け止められる。また、それまで施設の中で完結していたサービスを様々な形態に広げようという考えの現れと思われる。

そのような状況の中で、施設建築コーディネーターが誕生し、居住者、地域、自治体の3者を、完成後の使いこなしに至るまでコーディネートしていることの意義は大きい。また、このコーディネーターは建築技術者であるにも係らず、建築土木部ではなくて、高齢者福祉課に配属されていることも、居住保障という観点からその存在意義は高いと思われる。

それは、単なる技術的なバリアフリー施設の実現だけでなく、利用者の最終的な満足を得るまで責任を持つ建築技術者が自治体にいる、という観点からもその存在は大きな意義があり、我が国の自治体建築技術職のあり方に大きな示唆を与えるものではないかと思われる。



## ⑤ ティビー・コミュニティにおける住宅改造の取り組み

住宅改造 建築技術者 自治体職員

HSB シニア住宅 スウェーデン Taby

視察日時 2004.3.8

記録者 馬場麻衣 稲垣有香

### 1. はじめに

介護保険が施行されて以来、住環境の整備が福祉にかかわることであるという認識が、一般国民の間に広まったかに見える。しかし、介護の軽減や自立の促進に効果のある改造がなされるための確かな診断基準がないこと、診断を下す専門化(チーム)が法的に位置づけられていないこと、改造に必要な費用の妥当性の欠如、他の福祉サービスとの統合性の欠如など、様々な問題が指摘されている。特に、建築士の役割はほとんど認識されていないといつてよい。

今回、建築技術者のバリアフリー居住環境整備に果たしている役割について、スウェーデン、デンマークを視察する機会を得た。(NPO 法人 福祉医療建築の連携による住居改善研究会 企画)

一般に、スウェーデン、デンマークなどにおける住宅改造の内容を診断する職種は作業療法士であり、建築技術者の関わりはあまりないとされてきた。しかし、ストックホルム Taby コミュニティでは、当初より、住宅改造技術部が関わっており、ヒアリング対象の I 氏は、30年間この仕事に関わってきた人であった。

本稿は、スウェーデン Taby コミュニティ技術部の建築技師の住宅改造へのかかわりについてヒアリングした結果を主として報告する。

Taby 住宅技術課インタビュー日 2004年3月8日

HSB シニア住宅 見学インタビュー日 2004年3月9日

### 2. Taby コミュニティの概要

Taby は、ストックホルムから北へ 5km に位置し、広さは約 60km<sup>2</sup>のコミュニティである。空港からも近く、ストックホルムから通勤電車で 20 分と立地条件が良く、自然環境にも恵まれている。人口は約 6 万人で、人口規模はスウェーデンの 290 あるコミュニティのなかでは大きい方である。

2002 年の人口構成は、20 歳以下が 27% (全国では 24%)、21 歳から 64 歳までが 59% (全国では 59%)、65 歳以上が 14% (全国では 17%) であり、国の平均から比べると高齢化率は低い。

住民の内、移民の占める割合は 6% で、これも国の平均より少ない。移民の出身国は 26 カ国にわたり、フィンランドやアジアからの移民が多い。ストックホルムの南地域では移民も多く、60 カ国にわたるそうである。

住民は教育レベルが高く、裕福な住民が多い。高校卒業者の比率は男 37%・女 39%、大学卒業者の比率は男 52%・女 51% と、高学歴者が多い。(国全体での大学卒業者の比率は男 29%・女 34%)



一人当たりの所得は、月あたり 15000 Kr~17000Kr。日本円に換算(1クローナ=1Kr=17 円)すると、255000 円~289000 円であるが、ほとんど共働きなので、夫婦世帯では月 50~60 万円の収入があることになる。そのうち、可処分所得は 2 万Kr(34 万円)程度との話であった。

また、現在の政治体制は保守連合が政権を担っており、福祉の分野でも民営化が進められている。



写真1 レクチャー風景

### 3. 住宅改造事業の概要

#### 3-1 住宅改造補助制度の変遷

1960 年代の福祉水準向上施策のなかで、1965 年には、どのコミューンでも住宅改造事業が始まっていた。財源の負担は、当初は国の補助金 100%であったが、1970 年代には国とコミューンの負担が半々になり、1990 年代からはコミューンが 100%負担するようになった。事業予算は以前は潤沢であったが、近年ではコミューンの財政は厳しくなっている。今年度は全体予算の30%削減方針が打ち出されているが、住宅改造に限ってはその必要性が認められ、増額している(補正予算)。

今年度住宅改造予算は 480 万Kr(8160 万円)で、工事数は年間 400~450 件程度ある。平均費用は 12000 Kr(200400 円)となる。これは人口 1000 人当たり6~7件の割合である。また、年間約 450 件の内、95%は高齢者の住まいである。

#### 3-2 受給資格者の考え方

受給資格については、「生れつきまたは高齢や事故などにより障害を持つ人は誰でも、その障害を配慮した住宅に住む権利を有する」という考え方に基づいている。具体的には、身体的障害のある人のみではなく、アルコール依存症などの精神的障害のある人も対象になる。もちろん、これには若い人(交通事故・アルコール依存症など)も対象になる。また、同じ人が障害の変化等の必要に応じて、何度でも申請できる。

#### 3-3 申請から改造までの事業の流れ

申請は、本人申請を原則とする。住宅の所有者などは申請できない。親族の申請も例外的である。申請があると、OTの意見を求めながら、建築技術者である住宅改造担当者がその内容を判断し、適切と思われる工業者に発注する。発注後は見積もりを査定し、工事後の検査を行い、必要であれば手直しをさせ、支払いを行う。

このように、公金支出のための標準的な流れはあるが、Taby では住宅改造担当者の判断で手順を省略し、工事を早く進めることもある。例えば、小規模なもの、退院日が迫っているなどの緊急を要するケースなどでは、担当者の判断で申請の翌日に、電話指示で直ぐに仕事をさせる事もある。対応が早いのは、施工発注先が3社に限られている上に、施工者との長年の信頼関係があげられる。3社それぞれの得意分野



や仕事の状況を把握して発注している。3社とも一人で経営し、必要な職人をそのつど手配している。住宅改造の比率が多いところは工事实績の内50%を占める。

OTとは、ほとんど電話での情報のやりとりで済むことが多い。住宅まで同行して現場で協議・判断するケースは、全体の約一割とのことである。風呂の改造に伴う福祉用具や手摺のタイプ選定が必要な場合は、OTが住戸を訪問して適切なものを選定する。障害を持つ人は、入院中はランスティング(県)所属のOTの指導を受けるが、自宅に戻ってくると、コミュン(市町村)所属のOT(10人いる)がかかわるようになる。身体機能と住環境との適切な関連を専門的に把握できるOTが、住宅改造にかかわることの意味は非常に大きい。

工事期間は浴室などで、床の工事も含むような大掛かりなケースでは2週間程度かかることもあるが、簡単な工事では、申し込みから1週間前後で使用可能な状態にしている。

### 3-4 改造内容

5000 Kr(85000円)以下の小さな工事が、全体の65%を占める。また、その内80~90%が7000 Kr(119000円)以下である。

簡単な改造工事内容例としては、敷居を無くす、手摺を付ける、水栓を使い易いシングルレバーに変えるなどがあげられる。また、高齢者の多くは女性なので、台所改造は重要な意味を持つ。台所棚扉の開閉を容易にする工事は5000 Kr(85000円)以下でできる。(写真2)

#### 多い改造内容

- ①敷居をなくす
- ②手摺をつける
- ③水栓を使いやすく  
シングルレバーに
- ④台所の扉の開閉を  
容易にする



写真2 主要な改造箇所

比較的、高額工事内容と費用の例では、①高齢者の住戸のドアを自動開閉にするケース(15000Kr=255000円)、②風呂場の大規模改造ケース(50000Kr=850000円)などがあげられる。衛生設備ゾーン改造の代表的な手法は、浴槽を取り除いてシャワーのみとし、スペースを広くするやり方で、浴室改造の10~15%はこの手法である。また、高額で大規模な台所改造のケースもある。

対象工事内容は、住宅の中で固定された機能に対する援助であり、照明や家具は対象に含まれない。また、集合住宅の場合は、入口への改造も含まれる。

その改造が必要と認められれば、金額上の制限は無い。中には、1件で年間予算の半分をかけた事例もある。小規模工事の決定は、担当者の裁量で行う。50000Kr(85万円)以上は、委員会の決定が必要となる。この委員会は市議会の下にあり、各政党の代表によって構成される「環境建築委員会」である。コミュンの技術部から、委員会に資料を提出し、審議に必要なアドバイスをを行う。



ってきた中間検査がゼネコンの自主検査にまかされた結果、バリアフリー対応としては後退した住戸が出来るようになった。「今後の住宅改造への影響が非常に心配である」との担当者の話であった。

#### 4. まとめ、感想

Taby コミュニの住宅改造事業は、対象者、対象工事内容に対する規定を満足すれば、工事費の上限が設けられておらず、言い換えれば、改造の目的、効果が得られることを第一義とした制度である。

改造事業は、建築法が整備されて(1960年代)後、ほぼ40年位前から実施されている。その後の何度かの法改正、住宅改造に関わる法整備によって、その事業内容は変遷してきた。

改造内容は、敷居をとる、風呂に手摺を取り付けるなどといった簡単な改造で、65%が5000kr 以下の工事であるという。すなわち、住宅法により、細かく定められた住宅基準がフローの性能の向上を保障し、その結果、改造があまり大掛かりにならないということが読み取れる。

Taby コミュニの建築技術者は、この住宅改造補助制度がなければ、高齢者障害者が自宅で安心して暮らせず、コミュニの高齢者福祉は破綻すると考えている。すなわち、福祉の基盤が住宅の保障にあるということである。

わが国の介護保険住宅改修事業との格差が目立つ。

改造内容の決定は主として作業療法士が行うが、技術内容については、建築技師が責任を持つ。

今回ヒアリングできた技師は、30年間この仕事に従事してきており、当初は、他の仕事もあわせて行っていたが、事業の拡大に伴い、次第に専従化してゆき、今では、年間400~450件をひとりでこなしている。

利用者→OT→建築技師→工務店工事实施→フォロー、書類チェックの流れは、スムーズで、たとえば、今日のオファーに対し、明日工事するなどということも軽微な場合は可能であるということである。

一人の専従者が経験を蓄積し、エキスパートになることの効率・効果は大きい。わが国の住宅改修担当部署に建築技術者が配属され、一定期間専門家として知識を蓄積する仕組みづくり、つまり現在の自治体建築技術職のあり方を見直すことも必要であろう。しかし、一人で年間400件を「こなしている」事によってクライアント一人一人に合わせたケアが行われているのか気にかかる。小規模な改造であってもパターンではなく個人に合わせた改造がなされるべきだと私は思う。今回の技師は「仕事は難しい事はなく、やり方を理解すれば誰でもできることだ。」と言っていた。それはある程度の型を作ってそこにはめていくからではないだろうか。型にはめるのではなく個人の暮らしやすさを優先した改造を行わなくてはならないと思う。



## ⑥テイビー地域の介護ホームとグループホーム

所在地 Taby Kommun NASBY PARK

視察日時 2004.3.8

記録者 逢坂伸子

### 1. テイビーコミュニティの概要

テイビーコミュニティは人口6万2000人の市(コミュニティ)であり、そのうち6%がフィンランドやアジアからの移民である。民営化を推進している保守連合が政権をとっている。現在のテイビーでの高齢者福祉は市営が42~43%も残りの57%が民営である。

### 2. オルガレン高齢者住宅(介護ホーム)

オルガレンとはスウェーデン語で蒸気船という名前。開設して25年になる。3箇所の市営高齢者住宅のうちの一つ。高齢者住宅と痴呆のグループホームが併設させている。

高齢者住宅部分は3階建てで各階に22室あり、自宅では自分で生活できない、24時間体制で介護が必要なかなりの介護を要する人が入居している。入居者の年齢は85歳~100歳。杖歩行、歩行器、車椅子の方がいる。

痴呆のグループホーム部分は6人のグループホームが2区画ある。現在改修中で7人用になる。一室35㎡と共有スペース。各棟で朝食を作り、昼食、夕食はレストランで調理したものを食べる。訪問介護によりレストランの食事を配達してもらう人もいる。

1ヶ月で7300クローネ(1クローネ17円)3食に2回のおやつに24時間介護がついている。市は介護用ベッドのみ



写真1 レクチャー案内 イングリット・ニルソン介護ホーム所長(写真左) アンネリー痴呆グループホーム所長(写真右)



写真2 レストランの料理

を提供し、後は自前の家具を持ち込んでいる。地下部分にはショートステイ用の部屋があり、最長6週間入所できる。ショートステイは高齢者住宅への転居待ちや、病院から自宅への中間施設として、また介護者の介護負担軽減などの理由により利用されている。

入居者は市の社会福祉部が決定する。どこの場所に入居したいか希望は出せるが、必ず入居できるとは限らない。見学は自由。

スタッフは介護ホーム側が60名、グループホーム側が38名。夜間のスタッフは介護ホームの各階に1人と2階共通スタッフがフリーで1名。入居者の98%がオムツを使用しており、夜間の介護内容はオムツ交換が中心。スタッフの職種は介護士、看護師、看護師助手、OT、PTである。



写真3 グループホームの一室

日中は22人の入居者を10人と12人にわけ、それぞれ4人のスタッフがついている。グループホームの夜間のスタッフは2人で24時間いつでも看護師を呼べるようになっている。

施設のPTは主に歩行訓練、関節可動域訓練、体操を行っており、一人に対し、5分から20分くらい行っている。週一はグループ体操を行っている。

### 3. 施設内でのサービス

#### ・デイサービス

周辺地域の人が利用している  
読書、ゲーム、ことば遊びなど

週1回ボランティアが2人の利用者を散歩に連れて行ってくれている

#### ・痴呆アクティビティ

タクシーで送迎サービスを行い、10時～15時まで行っている



写真4 施設のPT(写真中央)





写真5 介護ホームの一室・リビングコーナー

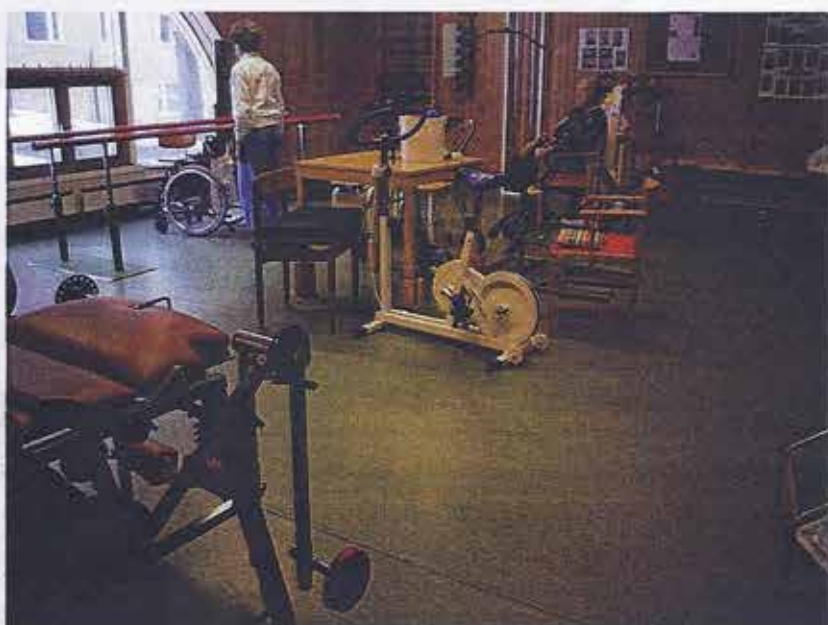


写真6 介護ホーム・リハビリ室

## ⑧HSB の高齢者住宅見学 ローデット(Radet)

住宅供給機構 HSB  
所在地 ヒョースホルム  
視察日時 2004.3.9  
記録者 佐藤和子

### 1.概略

ローデットは HSB が持つ 5 箇所のシニア住宅のうちのひとつで、分譲住宅 48 戸から構成されている。ストックホルム南東に位置するナッカコミュニティにあり、地下鉄で 10 数分のナッカ駅前に建つ。駅前にはスーパーや郵便局、医療センターなどがあり、生活上の利便性は非常に高い。1997 年に建設された。

### 2.住戸の特徴

この住宅は、元気な高齢者のためのものであるが、将来にそなえたバリアフリー設計が配慮されている。①車椅子でも利用しやすいように、ドア幅は 90 センチ以上。②浴室にはバスタブとシャワーのためのスペースを持つ。③窓の取手は普通より低く。④すべての部屋にあるコンセントは 1m の高さに。⑤台所には使いやすい高さにオープンを作りつける。住戸プランには、2 室タイプ (63 m<sup>2</sup>)、3 室タイプ (75~80 m<sup>2</sup>)、4 室タイプがある。分譲といっても日本と違い利用権を買い取る。そのローンが家賃のように支払われ、その額は 1 年間に 1050Kr/m<sup>2</sup> である。他に管理費 (固定資産税、組合の借金利息、公益費、清掃管理費など) を分担して支払う。

### 3.共用部

住棟入り口横の管理事務室、入り口正面のキッチンのある大きな集会室、サウナ、手芸室、木工室、ダーツ室、洗濯室、ゲストの宿泊室 (キッチン、サンタリー付) がある。高齢者同士の交流や趣味の活動を重視し、週一回水曜は皆が集会室に集まってコーヒーを飲むとのことである。

### 4.入居者

建設当時の入居条件は 55 歳以上、特に上限は設けていない。現在の平均年齢は 79 歳とのことである。入居者の経済状態は恵まれている。車椅子利用者は 3 人しかいないが、かなりの人が歩行器利用者である。入居者は夫婦より、単身者のほうが多い。ペットは何匹でも飼えるが、現在は犬が一匹いるだけとのこと。内部での住み替えは少なく、2 ケースあったのみとのことであった。

自治会長さんは、住宅不足の時代に HSB のシステムに賛同して会員になって約 50 年。HSB は国内の住宅基準をリードしてきたし、この住宅のレベルにも満足しているとのことである。理由として、まちに近く便利なところ、高齢者同士のさまざまな活動仲間がいること、バリアフリー住宅基準への配慮等による安心を説明してくれた。



住棟配置は敷地高低差を利用しており、への字型につながっている。  
三階建棟について以下、写真を示す。

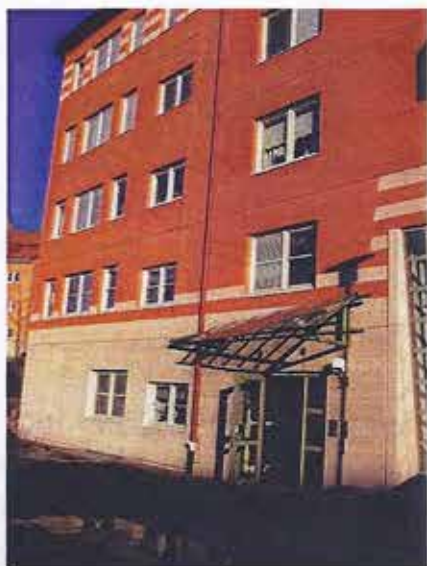


写真1 外観



写真2 美しいサンルーム



写真3 ローデット居住者とのミーティング風景



写真4 案内板



写真5 共用サウナ

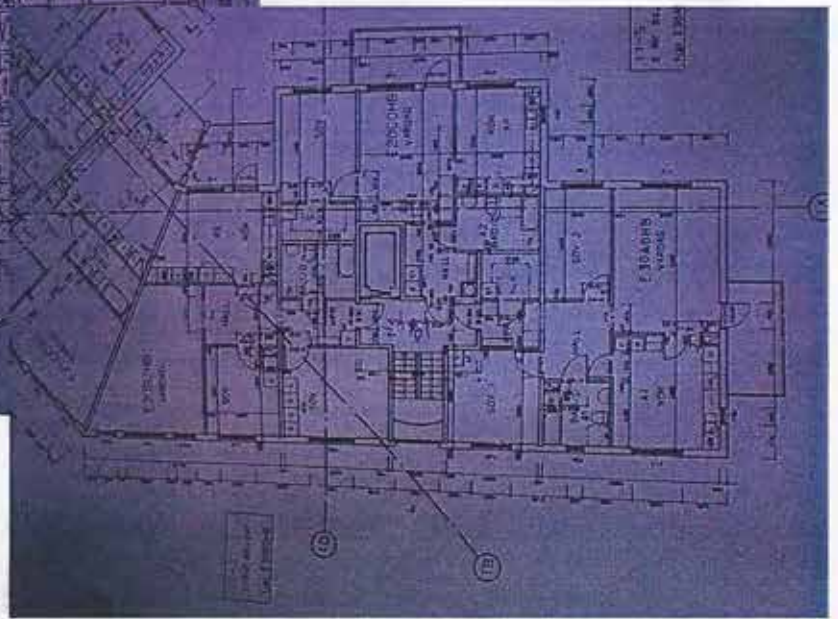
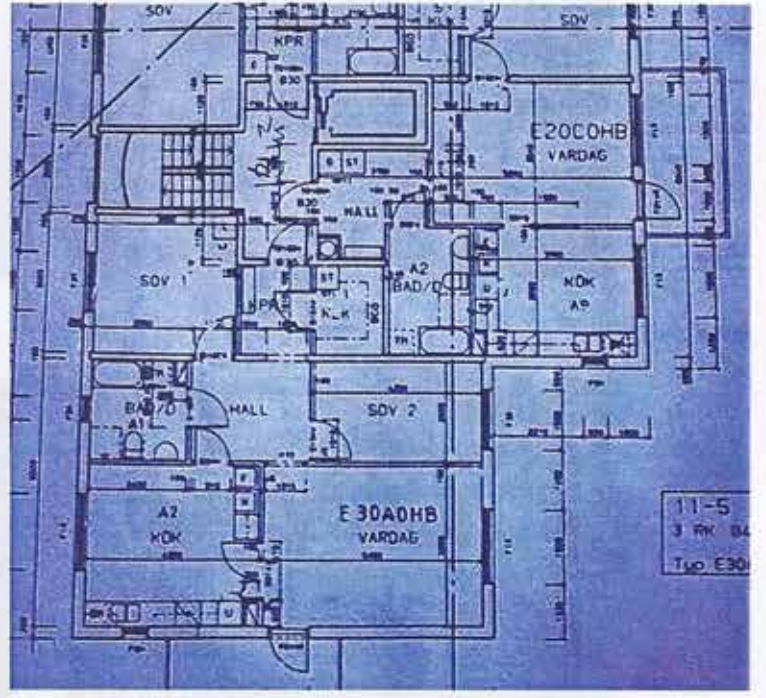
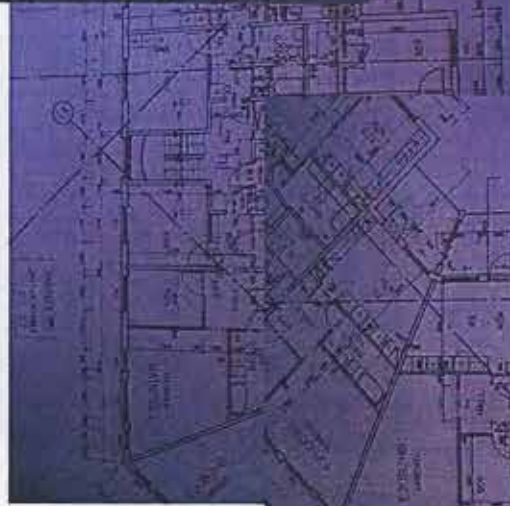
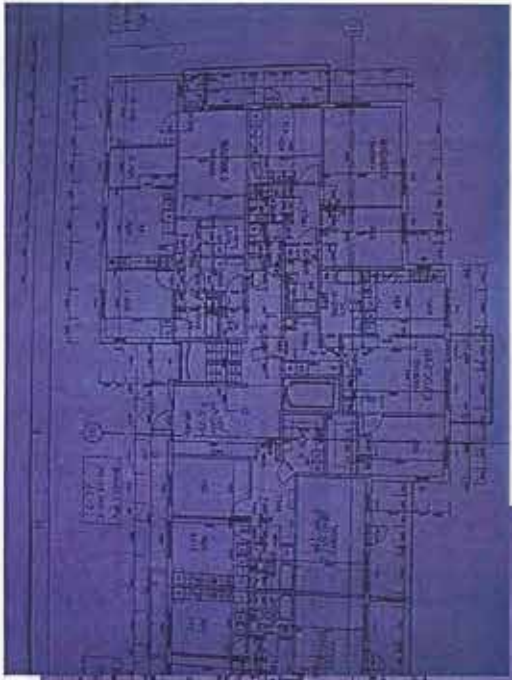


写真6 建物図面



○住戸1



写真7 台所



写真8 台所・食堂



写真9 バスルーム・暖房



写真10 リビングコーナー



写真11 ベッドルーム

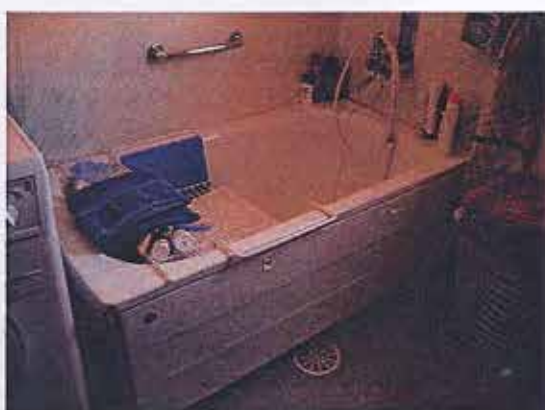


写真12 バスタブ

○住戸2



写真13 台所



写真14 リビングルーム



写真15 ベッドルーム



写真16 バスタブ・洗濯機



写真17 シャワー・便器



写真18 アイロン台



○住戸3



写真19 台所・食堂



写真20 リビング



写真21 ベッドルーム



写真22 シャワー・便器・洗面



写真23 バスタブ・洗濯物干し



写真24 ベランダ

## ⑪テイビー市ナイトケア視察

施設名 ハーグモーゴーデン  
介護員 エーヴァ・ヴィークランドさん  
          イングリッド・モッレルさん  
視察日時 2004.3.10  
記録者 山下剛司

コミュン運営の施設でショートステイ デイケア 入所 訪問介護を行っている。Tabyにはこういった施設が4箇所有りナイトケアは、4区域の1つを担当しておりナイトケア利用者人数は16名

(内5名が独居、中には痴呆の方も)

訪問スタッフは常勤2名で1台の車を利用し17時から22時の訪問となっており、1人あたりの訪問時間は15分から30分が平均

また、すべて2人で訪問すると言うわけではなくサービス内容によっては、別宅へ一人というケースもある。

1件目 82歳 女性

介護員2人でのサービス提供(約30分)

生活は車椅子 サービス内容は 食事準備 排泄介助(ポータブル)

ポータブル移動にはリフトを使用し

食事は配食サービスを利用しており1食を2回に分けて食べているそうです

1食=41クローネ

この方は夜にもう一度訪問有り



写真1 居住者と訪問者一同



写真2 玄関



写真3 ポータブルトイレへの移動にリフト



2 件目 90 歳 男性

介護員 1 人でのサービス提供 (約 15 分) その間もう一人の介護員は他の在宅へ  
身体は自立ですが、痴呆が少し有り

サービス内容は食事を温める 会話 見守り

高齢で痴呆があり在宅での独居生活はとはじめ介護員の方は心配されていたそうですが、近くに息子さんが住んでいるということと介護員が変わらないということもあり本人も安心して生活ができ、介護員がくるのを楽しみに待っているそうです。



写真4 訪問風景

3 件目 82 歳 夫婦

介護員 2 人でのサービス提供 (約 30 分)

女性 左麻痺 ALS

男性 歩行器を使っての生活

女性に対してのサービスがメイン

サービス内容は 排泄介助 ベットメイキング オムツ交換



写真5 介護風景



写真6 リビング



写真7 居住者と訪問者一同

## 感想

巡回型の訪問ということもありサービス内容は安否確認とオムツ交換がメインという感じでした。今回いきなりの訪問だったのですが、皆さん快く迎えてくださり、写真を見ながら話をしたり 趣味の話をしたりなど また明日も来てくださいね。という感じで人を受け入れる感覚に少し驚きました。

また、夕食など、1品もしくはそれにビスケットといった感じで、昼のヘルパーさんがあらかじめ作っておいた食事を温めて盛り付けるといった具合で

日本との食文化の違いについても(おかずの種類)大きく差がありました。

また、サービスまでの流れについては

コミュニケーションの判定員が利用者を訪問し、サービスが必要かどうかを判定し

必要となった場合 利用者が事業所を選択し、その後コンタクター(日本で言うサービス責任者のような人)が利用者とどういった事が必要かを話し合いサービス内容を決めサービスを開始する。その後の変更などは、問題がコンタクターに上がった時点で必要に応じ再度訪問するといった流れだそうです。

訪問記録の内容についても何かあった場合や、サービス時間が延長したときに記録する程度で、あまり長々と細かく書くことはないそうです。

介護員の方に質問をしてみました。

Q1 利用者が事業所を選択される場合、市営と民営の事業所があるが、比率がわかれば教えていただきたい

A1 はっきりしたことは解りませんが、広告などは市営も民営もあるので同じだとは思いますが、やはり市営の方が歴史があるので安心している人は多いと思います。

Q2 雇用形態などについてこの国ではどういった形態が多いですか？

A2 私は常勤です登録形のような時間で働く人もいますが市営でも民営でも、あまり聞いたことがないので、少ないと思います。

Q3 需要と供給のバランスについてはどうですか？

A3 介護員不足です。

Q4 2人で1台の車に乗って移動するというのですが、もし1人の利用者のサービス時間が押してしまった場合 その後の人のサービスはどうなるのですか？違うスタッフが対応するとか…。

A4 違うスタッフが対応するといったことはありません。利用者の皆さんが私もそういう時がいつかくるという考えなので、あまり問題にもならず、そのまま引き続きサービスを行っています。

Q5 緊急ベルを設置している利用者はいいますか また ベルが鳴ったときどういう対応をとっていますか？

A5 昔はコミュニケーションが管理していましたが今は HSB がその権利を買い取っており現在私たちはそのサービスは行っていません。



## バスルーム（水回り）は4畳半サイズ？

馬場健一/快居の会（一級建築士）



デンマーク 高齢者住宅  
1998 120㎡

福医建研究会北欧視察旅行の最初の住宅の見学は、デンマークでDABの作った高齢者住宅の1LDKの空き住戸でした。リビングは20人以上の見学者が入っても十分の広さで、ダイニングキッチンとは家具で隔てられているのみです。寝室に付属のバスルーム（水回り）は、便器と、洗面器、シャワーで4畳半近い広さでした。6.5平米（約20坪）を、日本だったら何部屋に区切るのだろうと思いました。

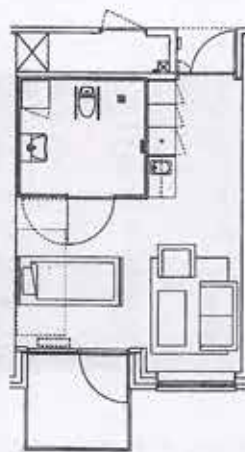
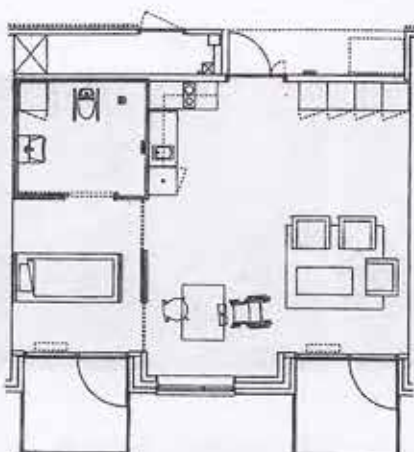


次に訪ねたのは、車椅子対応の改造事例でした。段差の少ない裏庭側にすり付け板なども使って電動車椅子の出入口を確保するとともに、住戸内の敷居（杵ずり）などを取っています。このお宅の水回りは珍しく長方形で、概ね4帖大の大きさです。洗濯機、トイレ、洗面台、カーテンで仕切られたシャワースペースには、シャワーチェアがありました。どうやら、主要な水回りの改造は、バスタブを取り払うことのようにです。



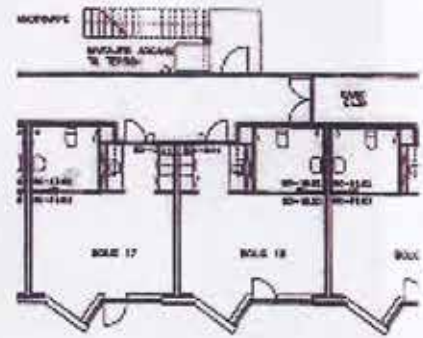


別の高齢者住宅（上）や、オレコレと呼ばれる高齢者コレクティブ（下）も訪ねましたが、どこも4畳半近いバスルームで、バスタブは付いていませんでした。



エルシノアコンミュンにおいて収集した、高齢者住宅の図面も上のようなものでした。住戸の大小に関係なく、バスルームは4畳半近い大きさ。内ので、2.4 m角というのが標準サイズのように。





同じエルシノアで、どの部屋からも海が見渡せるのが売り物の高齢者住宅、ストランドホイの個室（2段目）も見せてもらいました。

天井にはリフトの設備もあり、日本の感覚では特養とでも言うべきところですが、各戸に郵便受けがついて、高齢者住宅ということでした。ここでもバスルーム（左）の大きさには、ほとんど違いがありません。



最後は、スウェーデンの高齢者コレクティブの住戸のバスルームと、退院前に在宅生活を体験する、病院内の住戸のバスルームです。後者はいろんな調整代を見込んで大きいのはやむを得ませんが、ここでも基本はデンマークと同じで、トイレ、洗面台、シャワーとたいてい洗濯機も入って4畳半近いものです。

翻って日本では、たかだか数十年の内湯の習慣のため、高齢者住宅にもいろんな危険をとまなうバスタブが無くせず、入浴介護にも苦勞している。もっと柔軟な発想で生活、そして支援が出来ないものだろうか。



3月4日 デンマーク

ホースフォルム市「ソヒールンド」

集合住宅のトイレ



- ・DAB住宅公社が建設した集合住宅のトイレ。
- ・広さは浴室と一緒に4帖半程度。



オレコレ 「キエスペアルンデン」 住戸のトイレ



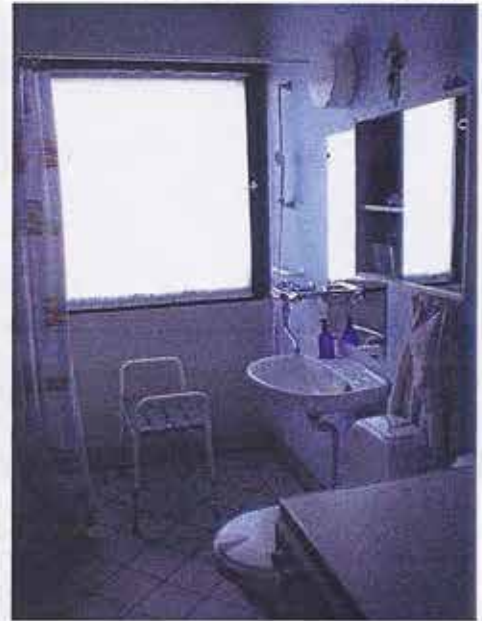
- ・これらも広々として、自由度がある。





3月5日 デンマーク

Vapnagaard 賃貸集合住宅のトイレ  
(住宅改修事例として見学)



・トイレ部分の改造は必要なかったようで、他の部分を改造している。

Poppelhaven 高齢者住宅



・トイレ部分はユーティリティと一体になっていて、ここでも日本に比べて非常に広い。

・デンマークの集合住宅はこのタイプが標準のようだ。



# 3月5日 デンマーク

## ストランドホイ 高齢者ケア住宅



- ・デンマークの他のトイレと同じようにユーティリティと一緒にある。
- ・床はタイル。靴での生活の為、足が冷たいと云うことはない。

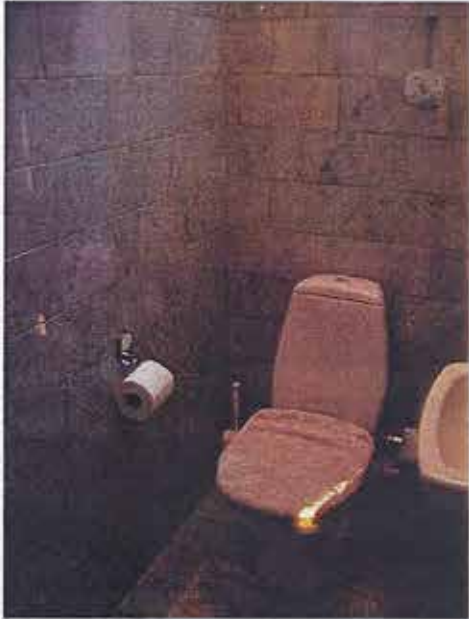


- ・跳ね上式のアームレストが標準で装備されている。
- ・両方ともアームレストが跳ね上げ式の為、車椅子でどちらの方向からも近寄ることができる。
- ・アームレストの下にペーパーホルダーがあり、位置が工夫されている。



# 3月5日 デンマーク

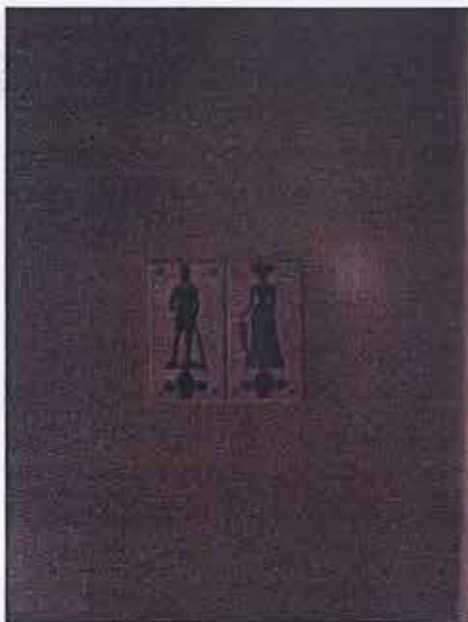
## ブンゴード邸 一般住宅



- ・1階玄関付近のトイレ。
- ・一度改造をしている。



- ・客室用トイレ。手前にシャワーブースもある。デンマークでは手狭の部類に入ると思われるが、来客専用のトイレ・シャワーがあること自体驚きである。



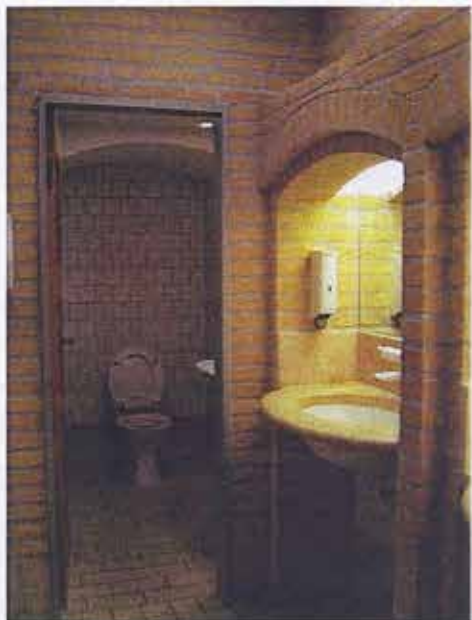
- ・トイレのサイン。ロイヤルコペンハーゲン製。



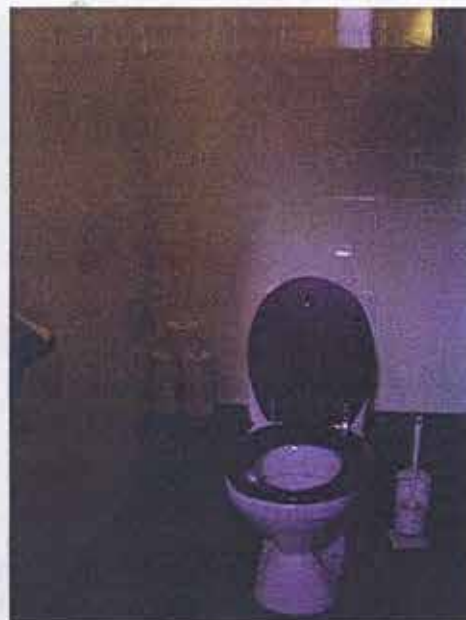
- ・一般住宅では。日本のトイレと差ほど広さは変わらない。

 3月6日 デンマーク

グルントビ教会 トイレ



旧王立図書館 トイレ



・教会のトイレということもあり、清潔感が溢れている。

王立図書館(ブラックダイヤモンド) トイレ



・最近できた建物で、トイレ全体がモダンな感じがして素晴らしい。





3月6日 デンマーク

その他トイレ



- さまざまなトイレがデンマークには存在している。細身の小便器や日本では見かけない便器が多数ある。
- ペーパーホルダーや水洗レバーも日本の物とは形が違っている。





## 3月7日 スウェーデン

ストックホルム空港 トイレ



・大便のブース。中はかなり広く、洗面器も各ブースに設置してある。棚のデザインが斬新である。



・車椅子使用者用のトイレ。上写真は入り口のスイッチで、電動開き戸。



・内部の様子。両側に跳上式の手すりがついている。内部は一般のトイレの2倍程度ある。





# 3月7日 スウェーデン

ストックホルム 市庁舎



・小便器。背が低めである。



・車椅子使用者用トイレ。内部には稼働式の手すりと洗面器がある。

・一般の大便器。多少手狭だが、洗面器も設置してある。



## 3月8日 スウェーデン



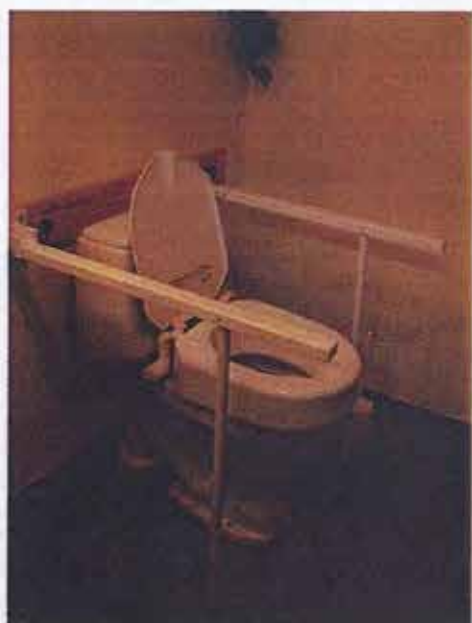
介護ホーム グループホーム他 トイレ



・壁付けの大便器にシャワーチェアを使っているタイプ。



・壁付けの大便器に跳ね上げ式の手すりを設置しているタイプ。



・床排水式の大便器に跳ね上げ式の手すりを設置。



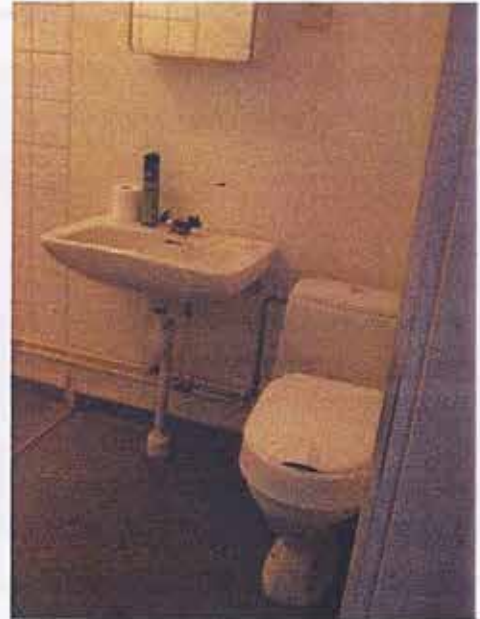
・壁付け式の大便器に歩行便座を設置しているもの。





## 3月8日 スウェーデン

### 介護ホーム 個人住宅



・特別に見学を許可された個人住宅のトイレ。広さは他の住戸のトイレと変わらない。補高便座を設置しており、左側のみアームレストと縦手すりが壁に設置されている。



・糖尿病にて左足を切断している人で、住人に合わせて補高便座と手すりを併用している。今後病状が進行したとしても、広いので対応は容易。



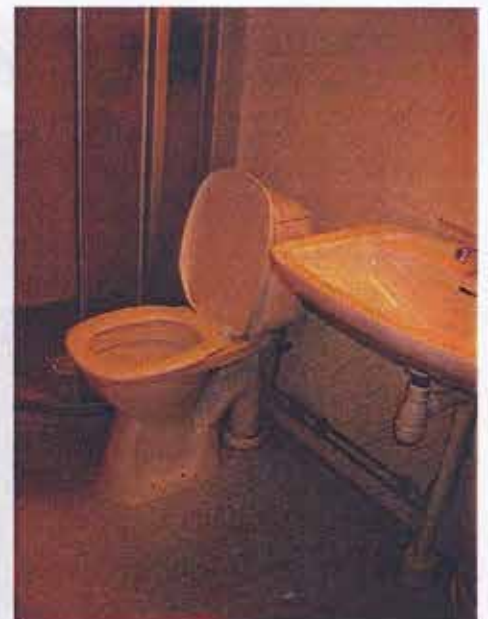
3月9日 スウェーデン

## HSB高齢者住宅



### 共用部分のトイレ

- 手すりは跳ね上げ式のもの。  
ペーパーホルダーが付いている。



### 一般住戸のトイレ

この3つはそれぞれ別の住戸のトイレ。基本的には同じものを設置してある。





## 3月9日 スウェーデン

### テクノエイドセンター



・特に何の変哲もないトイレだが、黒色の便座は日本では見ないものである。

### 旧市街 ガムラスタン



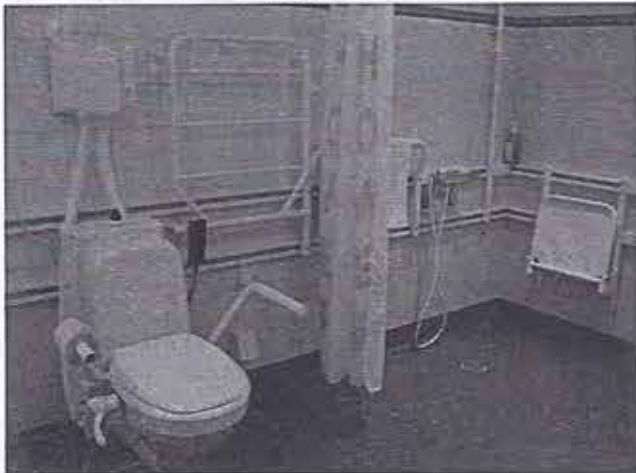
・道端にあったトイレ。男性専用の小便器。形といい色といい、トイレとは想像がつかない。



## 3月10日 スウェーデン



### ダンデロード病院内 @ホーム



・病院の内部にある、インテリジェントハウス(5日間のリハ体験プログラム)のトイレ。高さが可動するタイプで、スウェーデンでは新しいもの。洗浄機能が付いており、手動になっている。設備では日本の方が進んでいるという印象を受ける。



### サンマルコ教会



・設備は古い。大便器の方は広く、机や棚等がたくさん置いているのが印象的である。





3月10日 スウェーデン

旧市街 ガムラスタン



・旧市街の公衆トイレで、左の写真が入り口の写真。大便器は有料で5クローネ≒100円程度。小便器に関しては無料。



・こちらも旧市街の公衆トイレ。小便器の形が変わっており、日本ではまず見ることはない形。

## 北欧視察を終えて ～とつてもうらやましいデンマーク～

大東市福祉保健部保健医療福祉センター  
リハビリテーション課  
理学療法士 逢坂伸子

お役所仕事をしている身でありながら、年度末という大変いそがしい時期にこの北欧視察を強行してしまった私は帰国してからの山積みの仕事のことが気にはなりながらも、実のところは「北欧に来てしまったら後は何もできないから考えてもしかたがないワ」と開き直って北欧を楽しんで参りました。

福祉の先進国といわれるデンマークとスウェーデンですが、やっぱり違いますねえ、わが国とは。

デンマークとスウェーデンって同じような国と同じような施策なのかと思いきや、似ているようで違いました。お互いライバル意識も強いようですね。

私はだんぜん、デンマーク派です。国土が小さな国ならではの施策なのでしょうが、住み手の状況に応じて、住まいをどんどん変えていくなんて、とつても合理的！日本のように家や土地への執着心が少ないというよりも「家や土地はみんなのもの」という意識からして違うのですね。家族が減ったら、小さな家に引っ越せばいいんです。年をとれば、バリアフリー化された家に移ればいいのです。何も住みづらい家を無理に改修なんてする必要ないのです。そう遠くない同じ地域にいろんなパターンの住居があり、状況に応じて住み替えていくデンマーク方式に大賛成！！

もうひとつデンマークでとつてもすばらしかったことは、バギーを押しているパパさんが本当によく目に付いたことです。日本のように休日にママさんつきではなく、平日にパパさんが単独で押しているのです。同じように自転車に子供を乗せているパパさんもよく見かけました。日本ではまだまだ少数派ですよ。日本より一足先に少子高齢化社会に突入したデンマークは少子化対策に力を入れているとは聞いていましたが、国の施策だけでなくパパさんたちの協力も大きな力になっているのだろうなあともうらやましく思います。確かに小さな子供、特にバギーに乗った子供の数が異様なほどに多かったです。

後、街並みも統一感があってとても美しかったのもデンマークでした。古い町並みをのこしながらも、使いやすそうでした。平地が多いこともあり、自転車道がどこの地域でもしっかりと整備されていて、段差もなく、歩行者を気にすることなく、とつても走りやすそうでした。自転車の数も多かったです。そのスピードもすごい速さでした。普段自転車で仕事をしている私としてはこれもとつてもうらやましい限りでした。自転車道が整備されているから、子供が2～3人乗れる荷台付きの自転車もすーいすいと走っていたのも印象的でした。日本でも販売されているとのことですが、乗れませんよね、日本の道路では。歩道の幅も狭いし、車道で入り口では斜めになっているし、段はあるし、絶対無理！田舎のサイクリングロードくらいですかねえ。それじゃあ保育所の送り迎えに乗っていけない！わが国であの自転車を実生活で使える日がいつくるのでしょうか



か・・・無理でしょうかね。

以上、とつてもうらやましいことだらけのデンマークでした。

## 北欧視察旅行感想文

訪問介護ステーション  
有限会社 マエダケアサービス  
山下剛司

今回 住居と福祉用具という視点から勉強できる北欧視察旅行に参加でき、北欧の在宅の状況や専門分野の方がどういったところに着目し視察しているのかなどを知ることができ、大変勉強になりました。

また、この視察で印象に残っているのが、生活にあわせて住居を住み替えていくという点と同じ考えをもつ高齢者があつまり一つの地域に住んでいるという点です。

実際に住んでいる方たちは、いままでの仕事などで培ってきたスキルなどを生かし充実した生活を送っており、またこれからの問題点などを話し合っ規則を決めていくなど

とにかく精神的な自立というか考え方が違うのだなど、実際にお会いし話を聞くことによって感じられそして、こういう考えをすることが出来る歴史のある国なのだとも思いました。

そして、この視察に行く前から耳にしていた「この国に施設はない」という言葉の意味もちょっとわかったような気がしました。

ちょっとだけですが・・・



## 北欧視察感想

落ち着いた住生活を楽しむゆとりのある人たち

佐藤和子

今回の視察では、高齢者や障害者の住むいくつかの個人住宅を見ることが出来た。

どの家もすっきり片付き、美しく、その人ならではの飾りつけがされている。そのインテリアは決して高級家具が置かれているとは限らない。しかし、座ってお茶でも飲みたくなるような場所がいくつもある。部屋にある程度の広がりがあれば、テーブルや椅子、ソファの置き方のバリエーションがいくつもあることを実感する。また、窓際やカウンター、棚の上、時には天井からと緑や花が何箇所にも置かれて、室内を和らげている。また、その色や形の取り合わせかたが、なかなかおしゃれである。テーブルクロス、モビール、食器、生活雑貨の小物、家族写真、おしゃれなスタンドにたてられたろうそく、等の生活雑貨がうまく飾られて、ただの白い箱に過ぎない室内空間をみごとに人のぬくもりを感じさせられる、「生きた場所」に変身させている。

人が住んでこそ「住居」という事を納得させられる。そして、そこに飾られた絵や地図、タピストリー、布、食器などそのそれぞれにそこに住む人の物語があふれている。住人の生きてきた歴史が、インテリアのなかに表現されているのだ。

船乗りだった人は、寝室に大きな額に入れられた地図があり、立ち寄った場所にプロットがされている。初めての訪問者でも、その額の前ですぐに外国での思い出話を聞いてみたくなる。また、ちょっと古い時代の結婚式の正装をした若夫婦の絵を飾っている家もある。その前では、この二人は誰か、どんな出会いで結婚し、どんな人生を送ったのかをつい聞いてしまう。また、プロの画家にかかせたようにはみえず、どんな関係の人がいつ、どういきっかけて描いたのかと、次々に興味がわく。

長くデンマークに暮らす通訳のブンゴード孝子さんに、このインテリアセンスはどうして育つのかを聞いたが、特に子供に学校で教育しているわけでもなく、経済的に恵まれた階層だけというわけでもないとの事。まさに、国民性という事なのか？確かに、日本に比べれば、まちは美しく、公共の場所の家具やキオスクもすごくセンスが良いが。誰かこのなぞを解いて下さい。

さて、現在の日本の若い世代の一部は、少々高くても、デザイナーズマンションに住み、インテリアにも気を使っているらしい。日本も豊かに育った世代が、衣食から住まいに関心を持ち出したという事だろうか。また、日本の特養も個室化がすすみ、食満(けま)喜楽園を見学させてもらった時も、今までの他人数部屋と違い、その人の持ち込み家具や小物があり、そこへ入ると人のぬくもりを感じてほっとしたものだ。その人の部屋にいろいろな私物があってこそ、その人や家族の歴史に思いが及び、初対面の訪問でも話がはずみそうである。その人の尊厳あるケアにつながる大事な事ではないだろうか。

私の体験では、住宅改造相談事業で T 町の高齢者の住まいを馬場先生と一緒に訪問した時、みごとな梁のある民家の作りだったので、二人でその家がいつ頃建てら

れたのかを聞きだした事がきっかけで、それまでどうって変わってずいぶん嬉しそうに話をしていただけたことがある。その後、打ち解けてご家族の事も聞け、本音で今の暮らしの困りごと聞き出せ、同行したケアマネさんに感心された事がある。

「住まいは人を表す」という言葉があるが、おじいさん、おばあさんとひとくりにされがちな高齢期こそ、その人となり歴史を感じさせるその人らしい住まいに住む事は、本人にとっても、そのまわりでサポートする者にとっても大事な事であると思った。



## 北欧視察旅行感想文

訪問介護ステーション  
有限会社 ケアフレンズ  
山田博司

まず最初に、この視察旅行を計画実行していただいた馬場昌子先生に感謝をいたします。昨年の後半から「北欧に行きませんか？」と声を掛けていただき、かねてからこの目で福祉の国を見たいと思っていた私には非常にありがたく参加の意思をお伝えしたことを覚えております。様々な海外ツアーはありますが観光目的がメインであり、特に建築や福祉用具を主にして福祉の現場を見学できる視察となると自分で探すには限界がありました。

私自身この視察旅行の直前に病気がわかって参加しようかどうか迷いもありましたが、皆様への迷惑も顧みずご一緒させていただきました。視察旅行後の手術を経て、約1ヶ月入院生活をしていましたが、この視察旅行に参加させていただいたことが退屈な入院生活の中で、明日への活力になりました。『行ってみたかった国へ行けたこと』これだけで私は本当に幸せでした。参加された方からは、主旨が違うってお叱りを受けるかもしれませんが、【スウェーデン・デンマークへ行けたことがよかったです！】これが私の本音です。

今、改めて約800枚の写真を眺めていて(デジカメになってから、やたらと枚数が増えました)2つの行動が鮮明に浮かんできました。

1つは、デンマーク・コペンハーゲンの自由視察で、数名の人と電車に乗って、ある教会を訪ねたことで、もう1つは、スウェーデンで当初の予定にはなかったのですが、添乗のお世話をいただいた外村さんのお骨折りで、ヘルパーさんのナイトケアパトロールに同行させていただいたことです。

デンマークの教会、Grundtvig's Church(確かグルンドビー教会と発音していましたが・・・)北欧の観光本にはあまり載っていない教会ですが非常にシンプルな教会と教えていただき見学に行きました。一応、建築屋でもあり(今は自分が何屋さんか？よくわかっていない)教会建築に興味があつて訪れましたが、なんとその大きさとシンプルさには、声も出ないくらいでした。教会と言えばステンドグラスとの思いが強かったのですが、まったくなく、そのシンプルさパイプオルガンの雄姿にしばらく見とれていました。

スウェーデンでのナイトケアパトロールは、参加者2名と通訳1名のみと言う限定で、ヘルパー派遣事業に係っている山下さんと私が参加させていただきました。午後5時から午後10時の間に16軒のお宅を訪問し、それぞれの利用者の目的をし終えると

ただちに車で移動する方法のナイトケアパトロールのうち3軒に同行させていただきました。通常は1台の小型乗用車にヘルパーさん2名が乗り次々と訪問するのですが、そこに我々3名も同乗させてもらい利用者宅を訪問しました。関節リウマチの独居女性のトイレ介助と夕食準備、軽い痴呆の独居男性の夕食を食べているのかの確認、夫婦2人住まいで片麻痺の奥さんのトイレ介助とそれぞれの目的が終わると、さっと次へ移動というナイトケアパトロールでした。私自身勉強不足で、このような方法を知りませんでしたが、ヘルパー責任者とのミーティングも含めてわずか2時間ほどの経験でしたが、大げさに言えば、一生忘れられない大変貴重な経験になりました。



1981

